

令和 8 年度第 1 回大阪府依存症関連機関連携会議・議事概要

- ◇ 日 時：令和 8 年 7 月 30 日（木） 午前 10 時から 11 時 45 分まで
- ◇ 場 所：大阪府教育会館たかつガーデン 8 階 たかつ（東中）
- ◇ 出席者：20 名

1 開会

- 会議の公開・議事録の取扱いについて

会議の実効性を高めるために本会議は非公開とするが、議事については要旨を公開する。

2 議事

- （１）令和 8 年度大阪府依存症対策強化事業の実施状況について【資料 1-1、1-2】

事務局説明

- ・ 第 3 期ギャンブル等依存症対策推進計画に基づき、普及啓発、相談支援、治療体制、回復支援体制の強化等を推進する。
- ・ 令和 8 年度は、特に（仮称）大阪依存症対策センター整備を重点的に実施するとともに、若年層向け予防教育、SNS 等を活用した相談支援、専門医療機関の充実、自助グループ等との連携強化を進める。
- ・ （仮称）大阪依存症対策センターについては、IR の開設前年度の令和 11 年度の開設を目標に、基本構想・基本計画の策定を進める。

- （２）大阪アディクションセンターの活動について【資料 2-1、2-2】

事務局説明

- ・ OAC 加盟機関・団体は現在 63 機関で構成されている。
- ・ 令和 8 年度は OAC 発足 10 周年を迎えることから、記念イベントの開催を予定している。
- ・ 地域交流会（ミニフォーラム）の開催、メーリングリストによる情報共有、啓発月間での取組紹介等を実施する。

議事 1 ～ 2 についての確認事項等

（委員より）

- ・ 各部会で出た意見等については、報告はしてもらえるのか。

⇒ 〈事務局〉

各部会を年度内に開催し、各部会長より第 2 回の本会議にて報告をいただく予定。

- ・ （仮称）依存症対策センターの進捗状況は。

⇒ 〈事務局〉

（仮称）依存症対策センターの開設準備に伴い、予算及び開設準備チームの人員を拡充している。

〈大阪精神医療センター〉

- ・ 全体像の柱の中では、拠点機関として人材養成にかかっているのではと考える。AI の時代とはいうが、やはり人あってこそ。ここが進まなければ依存症対策センターはうまく始まらないのではないかと思う。依存症対策に関わるさまざまな専門職や、自助グループ等で活躍するリーダーも必要。各所で人材を育成することにさらに力を入れていただければと思っている。

(3) 各機関・団体等の取組について

〈大阪司法書士会〉

- ・ 医療機関や行政機関と連携し、依存症が背景にある多重債務問題への支援を行っており、既存の連携機関との協力関係を深めるとともに、新たな医療機関や関係機関と連携することで、依存症に関する借金問題の解決に寄与していきたい。
- ・ 依存症に関する借金問題に対応できる司法書士が限られていることから、人材育成にも取り組み、多くの相談員を派遣できるように考えている。

〈大阪府精神障害者地域生活支援連絡協議会〉

- ・ 地域活動支援センターは、日中に精神障がいのある方が通ってこられる場所。利用者の中には依存症の診断のある方もおられ、日常的な支援を行っている。
- ・ 関係機関からの依頼を受け、他機関につながっていない方への訪問支援や生活支援に関わることもある。依存症だけでなく生活面での困りごとなど、複合的な問題を抱える方にも長期的な視点で関わらせてもらえたらと思っている。

〈大阪府薬剤師会〉

- ・ 薬物依存やオーバードーズへの対応、禁煙の啓発や支援などに取り組んでいる。
- ・ 学校薬剤師による「お薬講座」や薬物乱用防止教室を実施するとともに、オール薬剤師による禁煙ひと声運動により、若年層への予防教育を推進している。
- ・ 地域薬剤師会主催の健康展や講演会等を通じて、薬の正しい使い方や依存症予防に関する啓発活動を行っている。

〈大阪保護観察所〉

- ・ 薬物事犯等で保護観察中の者のうち、特別遵守事項で薬物再乱用防止プログラムの受講が義務付けられた対象者に対し、薬物再乱用防止プログラムを実施している。
- ・ 薬物のプログラムは、大阪マックや大阪ダルク、大阪精神医療センター等の協力を得ながら集団処遇で実施している。家族支援としては、家族の会の協力によるグループミーティングや、家族教室も開催している。
- ・ 保護観察終了後も断薬や回復を継続するには、地域支援との連携が一番重要であると考えている。

〈大阪マック〉

- ・ 回復支援プログラムや研修活動を継続して実施するとともに、他地域の回復支援施設との交流も行っている。
- ・ 少年院出院者への支援を通じて、回復の一環として少年院の心理職などの専門職との連携と、利用者支援の質の向上の必要性を感じている。
- ・ スタッフの高齢化が進んでおり、新たなスタッフの確保も課題である。スタッフ全員が助けられた当事者であり、今後もよいプログラムを提供していきたいと考えている。

〈依存症当事者〉

- ・ ギャンブル等依存症本人、家族の自助グループと、大阪いちよの会の3本の矢で支援をしている。回復記念イベントや家族教室等を通じて、依存症からの回復に関するメッセージを発信している。
- ・ 啓発活動は、大学や高校ではなく中学生の頃からの喫煙予防に取り組まないと遅いと思う。喫煙が薬物使用の入口となる場合もある。自分は薬物はやっていないが、ギャンブルにはずっと入った。自分を助けてくれた自助グループに感謝しながら仲間のために活動している。

〈近畿厚生局麻薬取締部〉

- ・ 捜査の過程等で知り合った人たちの悩みは、やはり社会的孤立を背景としたアディクションかと思われる、検挙した方の相談援助を独自で続けていた。
- ・ 平成23年度からは認知行動療法に基づくプログラムを導入した。当初は捜査員が行っていたが、令和元年からは精神保健福祉士など専門職に移行し、継続している。この4月からは、全国の検察庁からの引継ぎを受け付けることとなり、支援対象者の受入れ体制について整備している。
- ・ 社会的孤立を防ぐため、地域の医療機関や回復施設、自助グループへの橋渡しを重視しており、特に相談支援事業所に協力をお願いしているところ。

〈関西アルコール関連問題学会〉

- ・ 学会活動を通じて依存症に関する知見の共有や研修機会の提供を行っている。
- ・ 医療現場では、アルコール、ギャンブル、薬物を診ているが、その他の依存の患者も多く来院する。ゲーム、ネット、推し活、性依存、盗撮、クレプトマニアなど多様な依存症への対応が課題だと感じる。依存症対策センターで、ギャンブルだけでなく色々な依存に対応してもらえたら考える。
- ・ 特にオンラインギャンブルの影響により若年層の相談が増加しており対応が必要だが、医療機関においてはギャンブル等依存症の診療を行うほど採算面で課題が生じる現状があり、その改善を望む。

〈大阪精神科病院協会〉

- ・ 依存症治療に取り組む医療機関が増加している。
- ・ 覚せい剤の急性期の患者は減少傾向にあるが、以前使用していて、夜眠れないとか気分の落ち込み等を訴える後遺症レベルの相談が増加している印象を受ける。
- ・ 大麻は若年者の相談が多く、青年団などで先輩から勧められて吸ったという話も聞く。大麻キッドを使用して治療している人もいる。

- ・ ネット・ゲーム依存に関する相談が増加しているが、対応に困ることもあり悩みながら対応している。

〈大阪いちょうの会〉

- ・ GA やギャンノン、有識者の先生と連携しながら、ギャンブル等依存症や多重債務問題に関する相談活動を実施している。
- ・ 4 年前から、会の法律家と自助グループのリーダーとセットで定例の相談会を行うという、全国どこにもない体制で相談会活動を行っている。法律相談だけでなく、回復支援や家族支援を含めた総合的な相談対応を目指し、相談員向け教材（応用版）の開発を進めている。
- ・ 人材養成は大事であり、オンラインギャンブル施設へのアクセスや未成年の SNS 利用の問題についても、技術的、法的な側面から検討してもらえるような専門家も必要ではないかと考えており検討いただきたい。

〈大阪弁護士会〉

- ・ 刑事弁護人として、薬物事件等を通じて依存症当事者の支援に関わり、被告人を依存症専門医療機関や NA につなぐなどの橋渡しを行っている。
- ・ 大麻事案等では、本人の更生の可能性や家族の支援体制が整っている場合であっても一律に刑事処分がなされる現状に疑問を感じており、若い人たちに対して本当にそれでよいのかという思いがある。
- ・ 検察庁や保護観察所、近畿厚生局麻薬取締部が連携して支援につなげる取組については、支援につながるという良い面がある一方で、更生を強制する方向に傾く危険性も感じている。できるだけ民間の支援ルートも活用しながら、幅広く支援につなげていきたい。

〈堺市こころの健康センター〉

- ・ 本市では、依存症も含めた包括的な地域支援計画を立てており、次期計画の策定に向け、現状分析や課題整理を進めている。市内の依存症専門医療機関は増加し、アルコール、薬物、ギャンブルの各種別に対応する専門医療機関を整理できたことから、支援体制は前進したと感じている。
- ・ 一方で、相談機関や治療につながっている人は推計される当事者数に比べて非常に少なく、トリートメントギャップが大きな課題であると感じている。
- ・ OAC ミニフォーラムの開催や多職種による事例検討、自殺対策やゲートキーパー研修への依存症の視点の導入、支援者向け研修の充実等を通じて、相談につながりやすい地域づくりと地域連携の強化を進めていきたい。

〈大阪精神保健福祉士協会〉

- ・ クリニックでは、アルコール、薬物、ギャンブル等依存症の 3 つの依存の専門医療を行っている。薬物のミーティングでは、覚せい剤の方が中心で、大麻の方はなかなか定着しない印象がある。最近では市販薬、処方薬の乱用や依存の方も多くなっており、別でミーティングを行う方がいいかと考えている。
- ・ ギャンブルの相談が非常に多くなっており、仕事をしている人が多いので、土曜の枠はかなり先まで

埋まっているのが現状。家族支援として個別相談と、3つの依存を合わせて家族教室も開催している。

〈大阪府市長会〉

- ・ 市の窓口で依存症に関する相談があった場合、保健所や専門機関などを案内している。
- ・ 妊娠届出時には飲酒の確認をし、飲酒している場合は飲酒の影響の説明を行っている。市の広報誌やホームページ等で依存症の相談先の情報や府ホームページの案内を掲載している。
- ・ 学校薬剤師等と連携し、薬物乱用防止教室など若年層向けの予防教育に取り組んでいる。

〈ギャンブル依存症問題を考える会〉

- ・ 当事者支援部を中心に、回復施設への入寮時の同行支援などのサポートを行っている。また家族の立場の人で看護師が多く、ナース部として定期的に全国的に Zoom で研修会を行っている。
- ・ ギャンブル等依存症による自死の問題にも向き合っており、自死遺族になった家族の相談を受けたり、家族が参加して癒される場所として自死遺族会というものがある。
- ・ 大学等での予防教育や支援者向け研修にも力を入れており、教職員対象の研修を行う際にはお声がけいただけたらと思う。

〈大阪府断酒会〉

- ・ 酒害相談講習会や関係機関との懇談会を開催し、回復支援活動を継続している。
- ・ 9月には創立60周年記念大会の実施や地域断酒会の再開を予定しており、来年1月の1日研修会の開催と併せて、会活動を活性化していきたい。
- ・ 行政や医療機関との連携を深めながら、地域で継続して回復できる環境づくりを進めている。

〈大阪市こころの健康センター〉

- ・ 本市では、専門相談、支援者研修、普及啓発の三本柱を中心に依存症対策を進めている。特に小学校高学年ぐらいからの若年層向けの予防教育として、教育委員会と合同で動画作成等を行い、情報発信に取り組んでいる。
- ・ ギャンブル等依存症の本人向けプログラムの拡充に加え、今年度からは薬物依存症の本人向けプログラムの導入を予定している。

〈大阪府保健所長会〉

- ・ 府内保健所では依存症対策および相談については、精神保健担当職員が対応しており、相談においては嘱託医にも協力いただいている。
- ・ 関係機関との連携強化やスキルアップを目的とし、OAC ミニフォーラムや関係機関職員向け研修を開催している。
- ・ 医療や自助グループへのつながりだけでなく、生活課題への支援も重要であり、関係機関との連携が不可欠であると考えている。

〈大阪ダルク〉

- ・ デイケアでは、職員が同席して、日ごろの悩みを話したり雑談をしたりというコーヒブレイクのような場を不定期で開催している。
- ・ OD 倶楽部は休止中だが、大麻に特化した当事者研究会「野菜クラブ」などで、当事者主体の活動を継続している。
- ・ オーバードーズの当事者や、その家族への支援のあり方についても検討を進めており、ニーズに応じた新たな支援体制を模索している。

（４）その他

事務局から連絡

- ・ 今後の会議のスケジュールについての説明。

3 閉会